

## 1. 2023 年度活動計画

### ① スタディツアー事業とアンテナショップ MIDORI の営業

新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しながら、スタディツアーを再開する。例年実施している桜丘高校のスタディツアーは中止となる予定。それに代わって日本福祉大学付属高校のツアーの一部日程（マングローブ植林、Pagadpat 祭りなど）を受け入れる。他の日本人ボランティアの受け入れを順次再開したい。MIDORI の営業再開は当分、見込めない。2023 年に Patag でオープンする Café で事前のメニュー開発を行う。

### ② 日本 NGO 連携無償資金協力

2020 年度より 2022 年度まで「農家の生計向上を目指す高品質イチゴの観光農園の普及事業」をシライ市パタグ村で実施していた。2023 年度は 1 年次となる「干ばつが常態化するボホール州における、雨水貯留タンクの建設による、安全な水の供給と衛生教育の体制づくり」を実施する。ボホールにて地域・学校に雨水を貯留・浄水して提供するプロジェクトを進める。

### ③ イオン環境財団

「人と自然が共生する里山としてのマングローブ林の再生（第 1 年次）」を実施する。植林サイトは EB マガロナ群にある。行政、住民団体が積極的で、エコツーリズムによる地域振興に力を入れており、ここに NGO が加わることでさらに相乗効果を上げることができる。植林余地は 100ha あり、長期の支援が望める。リコージャパンの植林の一部もここで行う。

### ④ 地球環境日本基金

違法伐採による炭焼きの現状調査と環境と調和した炭焼きのあり方に関する調査である。パタグ村で 20 家族程度と想定していたが、169 家族が炭焼きを生業としている事実が判明。インタビューのデータを分析中。さらに需要側のダウントウンでの調査を開始する。

### ⑤ 地球環境基金

海洋プラ問題の緩和につながる、ボホールの離島におけるコミュニティベースの 3R とゴミ減量化を实践する 3 年間のうち 2 年次のプロジェクトである。資源ごみの保管所、一般ごみの集積場所の整備を行う。合わせて学校の環境教育も実施する。

### ⑥ 日中友好会館

中国の植林から東南アジアへの拡大を指向する団体からの助成金である。ボホールでマングローブ 5 万本の植林（3 年次）を実施する。

### ⑦ 緑の募金

中断していた緑の募金事業の復活 2 年目の植林事業。ネグロス Tabao Baybay 村で 20,000 本の植林を実施する予定。Balaring 村のようにサイトが外洋に面しており、高波への対策を実施する。

### ⑧ 企業連携

#### 8.1 ニチバン株式会社

「ニチバン巻心 ECO プロジェクト」を本年度も継続している。2019 年度に実施した社内研修の現地受け入れを再開したい。

#### 8.2 リコージャパン株式会社

7 万本前後のマングローブ植林の寄付をいただく予定である。ネグロス中心で実施したい。

### 8.3 アストモス株式会社

2022年度の寄付はなかったのですが、本年度の復活を期待したい。

### 8.4 その他の企業

少額であるが、えびせんべいの里が支援している。他に3社から植林に関する問い合わせが来ている。

#### ⑨ パガパットフェスティバル

規模をコロナ前に戻してパガパット祭りを8月に実施する。

#### ⑩ 国内活動

－国内事務局2名体制

－Panasonic 事業で明らかになった組織基盤の脆弱性を引き続き克服。国内体制の強化、収入構造の多様化など、解決できなかった課題に引き続き挑戦する。

		イカオ・アコの中期ビジョン改訂版(案)			2023年～25年	
事業名	植林事業	農業の6次産業化	安全な水供給事業	ソーシャルビジネス事業	国内活動	組織運営
これまでの実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マングローブ・上流部併せて201万本の植樹、参加者は毎年約4,400人</li> <li>・バラリン・ボカナ・ビクトリアスにエコパーク造成</li> <li>・バラリンの住民団体が自立しつつある</li> <li>・日本の大企業がCSRとしてイカオ・アコの活動を支援</li> <li>・山間部では植林したコーヒー・カカオの収穫・商品化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥料・イチゴ栽培の専門家の派遣</li> <li>・苗会社、肥料会社との連携</li> <li>・イチゴ栽培に必要なハードウェア整備</li> <li>・ボホールに大規模液肥施設の建設（JICA草の根技術協力事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本水大賞受賞</li> <li>・バリグアンとシバトにランパンプを設置し、学校や地域に水を供給</li> <li>・ボホールで6地域に雨水を活用した供給システムを建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニックカフェ経営7年間</li> <li>・フェアトレード12年間</li> <li>・国際協力研修センター運営8年間</li> <li>・クラウドファンディングの経験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜丘高校などで特別授業</li> <li>・ニチパン国内植林に参加</li> <li>・各種研修に参加し、職員の能力開発</li> <li>・ESDコンテスト、七夕短冊コンテスト等のイベントを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本本部事務所を移転（名古屋NGOセンターと同居し、情報共有などのメリットを追求）</li> <li>・Panasonic助成金を受け組織基盤強化に取り組む</li> <li>・事務局職員を採用</li> <li>・会員管理ソフトを導入</li> </ul>
中期ビジョン	植林参加の目的を多様化する	自立的な農業のモデルを作る	安全な水を地域・学校に届ける	ソーシャルビジネスを独立採算制にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsへの取り組みが多くの人々に知られる</li> <li>・参加型イベントが不定期に行われる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きやすい職場環境が整い、活動の支援ができる</li> <li>・効果的な会員制度が完成</li> </ul>
重点活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植林事業の見える化の取り組み（植林本数・映像・画像・ツールなど）</li> <li>・エコパークを活用したエコツーリズムの再構築</li> <li>・植林ビジネスの展開（記念植樹・マングローブウェディング・オーナー制度）</li> <li>・バガパットフェスティバルなどの植林イベントを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家現地派遣</li> <li>・イチゴの栽培をネグロスの高地に拡散</li> <li>・イチゴ農園の観光化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル地区に給水設備を設置しモニタリングを実施</li> <li>・省エネルギー・省資源の利水技術をマスター</li> <li>・行政が主体的に水問題を解決する仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの専門家の派遣</li> <li>・ビジネスパートナー（現地スタッフ）の雇用</li> <li>・カフェ、研修センターの再建（事務所を含む）</li> <li>・研修センターを学生だけでなく、企業研修の受け皿に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不定期に会員同士が交流できる場の設置</li> <li>・広報に関して①SNSの強化②HPの改訂③広告の活用</li> <li>・フェアトレードグッズを発掘し、国内で販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員制度の構築（既存の個人情報利用、効果的な会員特典、中高生向けの会員制度、入金確認がスムーズにできる管理システムの導入など）</li> <li>・人事制度・就労規則・研修制度などの整備</li> <li>・国内インターン・ボランティア・プロボノの受け入れ</li> <li>・総会・理事会の定期開催</li> </ul>
3年目標と成果指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間植林参加者数が、日本人100人、フィリピン人4,000人</li> <li>・植林に関するビジネス・事業が立ち上がる</li> <li>・エコパークの建設、そのための資金の獲得（橋・タワー・看板など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イチゴの生産性を日本水準に接近（1.5t/10a）</li> <li>・観光化促進のため、加工場とカフェの活用</li> <li>・温室18棟の積極的活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山間部・島しょ部に合った給水技術を啓発</li> <li>・1年に1校以上のペースで学校に安全な水を届ける</li> <li>・上記のノウハウを持ったコーディネータを2名以上育成</li> <li>・行政・住民が参考にできるマニュアルの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニックカフェの赤字が解消</li> <li>・自前の研修センターの建物の建設のため、土地を取得し、コンベ方式で設計計画を決定</li> <li>・日本企業の研修施設としてセンターの活用を計画する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内で定期的に活動</li> <li>・会員同士の顔の見える関係</li> <li>・HPの改訂の実施</li> <li>・HPのアクセス数の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日比で人事制度・就業規則の整備</li> <li>・国内外でスタッフを12人雇用</li> <li>・総会・理事会の定期的な開催</li> <li>・有料会員数が30人</li> <li>・年間の個人寄付と会費収入が合計18万円</li> </ul>